

みやぎ梅花

題字は曹洞宗宮城県宗務所梅花講長 三田村 道 雄

宮城梅花 令和元年. 6. 1 発行 第52号

発行所 曹洞宗宮城県宗務所
〒981-3117
仙台市泉区市名坂字檜町169-4
TEL 022-218-3801 FAX 022-218-3803



見わたせば

功德の海に よせかえす

ひとつひとつの

波のきらめき

観世音菩薩第二番御詠歌《浄光》

『写真と歌詞』

元梅花流特派師範

眞源寺住職 齋藤 政裕

齋藤政裕先生には、今年も素晴らしい写真と文章を賜りました。

写真とテーマ解説の全文は、9ページに掲載させて頂きましたので、ぜひご覧下さい。

ご挨拶



宗務所梅花講長

三田村 道雄

春風駘蕩、天も地も穏かに微笑む季節となりました。

講員の皆様には、愈々ご清祥のことと拝察申し上げます。

日頃より、宗務所梅花講の事業運営につきましては、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、各寺院梅花講講長の皆様には、講員様のご指導にご尽力をいただき、深く敬意を表します。

宗務所は、昨年十二月より新体制となり、永年に亘って梅花主事の職をお勤めいただいております田村修樹師が退任され、新梅花主事として清水大伸師がその任を引き継ぐことになりました。

した。

梅花事業は、常に「養成所初級・上級」「師範研修会」等が開催されており、業務も多くなっておりますが、梅花講発展の為、梅花主事のみならず、職員一同協力し合い、梅花事業を展開してまいりますので、宜しくご協力賜りますようお願い申し上げます。

去る三月十三日、参与（両宗議）、監事、所会議員各老師のご出席のもと、『宗務所定例予算所会』が開催されました。

本年度の宮城県宗務所事業計画案・歳入歳出予算案はもとより、宗務所梅花講事業計画案・歳入歳出予算案を提出させていただき、慎重審議の上、提出案件全てが承認可決いただきました。ありがとうございます。

本年度の事業計画としては、特に、初めての試みとして、各教区梅花講の

実務者に寄っていただき、宗務所梅花講関係役職員と伴に、地域における梅花講の現状、梅花講員の減少歯止め、更には講員の募集等、今後の梅花流についての話し合う場として、「拡大企画委員会」を開催する予定です。

なお、例年通りの事業等についても実施いたしますので、より多くの講員の皆様にご参加くださいますよう、宜しくお願いいたします。

五月より新しい元号「令和」になりました。

「令和」には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ、という意味が込められているそうです。

令和元年、講員皆様には、菩提寺における活動はもとより、宗務所梅花講活動についても、例年以上のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

合掌

退任のごあいさつ

前梅花主事

田 村 修 樹

平成十八年十二月、天野宗務所長より梅花主事を拝命してから、三宅所長、小野崎所長のもと、三期十二年勤めさせていただき、昨平成三十年十二月任期満了にて退任いたしました。至らぬ所多々あったかと存じますが、十二年間なんとか役目を終えることができましたのは、ひとえに講員皆様方のご支援のお陰であるものと、衷心より感謝しております。また、特別講習会・特派講習会の講師先生方、県内ご寺院様、師範・詠範の皆様、宗務所職員の皆様には、身に余る貴重なご縁とご指導を賜り、まことにありがとうございます。

在任中は前任の大宮先生が苦心して

整備なされた県内梅花講行事運営の体系を引き継ぎ、「講員様第一」即ち皆様が楽しく梅花に親しんでいただくように心掛けてきたつもりです。しかしながら、講員数減少による諸行事への影響は如何ともし難く、見直しを余儀なくされた部分もありました。残念な思いとともに、現状を正視しながら「講員様第一」を忘れずに、新たな展開に取り組む時期であることを痛感しております。

さて、私の任期中に発生した、あの「東日本大震災」は、忘れてはいけないう大変につらく苦しい出来事でした。亡くなられた皆様の御霊が安らわんとを、また、被災された皆様と地域が、早期の生活再建と復興を果たされんことを、心から祈るばかりです。

しかし、この出来事は期せずして梅花流詠讃歌の持つ何かを考えるきっかけ

けにもなりました。平成二十五年に当県で開催された全国大会の他、当県梅花諸行事にも全国から講員様が参加され、更には法具をはじめ多くの物資支援など、物心ともに同行同修への想いを頂戴いたしました。また、時間の経過とともに、講の持つコミュニティの役割や絆に改めて気付かされました。今後、講員数減少に対する重要なヒントになるものと、梅花流に携わる皆様と考えて参りたく思います。

これからは、新梅花主事の清水大伸先生をサポートしながら、宮城県梅花講の発展のため、及ばずながら尽くしたく存じます。

これまでお世話になりありがとうございます。重ねて御礼申し上げ、退任のごあいさつとさせていただきます。

合掌

新任のごあいさつ

梅花主事

清水大伸

三田村道雄所長より梅花主事を拝命してから、早、半年の月日が経ち、名取の自坊から宗務所に通う日々になつと慣れてきました。梅花主事は仕事の量が多いと伺ってはありましたが、目の前のやるべきことを、前梅花主事である田村先生にご指示を仰ぎながら、事業に追われるように何とかこなしているのが実情です。

思い返してみると、大宮先生が梅花主事時代に宗務所の養成所に何も分からぬまま入所し、初級の講師をお務め頂いたのは田村先生と故三田村先生でした。上級では齋藤先生、永松先生にご指導賜りましたがお唱えは正直上達

しませんでした。卒業後は毎年県大会のお手伝いをさせて頂いたり、長澤先生よりご縁を頂いて師範会の会計を任せられたりと、お唱えよりも事務、運営に注力しました。力及ばないところばかりでしたが、ただ、先輩方から頂いたご縁と任を有難く思い、自分なりに務めてきた結果が梅花主事というご縁に繋がったのかなと思っております。

講員様の高齢化による減少等、梅花流の諸問題は具体的な解決策はないままではありますが、三田村所長が掲げる「スマートな宗務所運営」を心掛け、時代に則した梅花流の運営に努めながら「講員様第一」に四年間の職務を全うする所存です。何卒、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

訃報

仙台市 圓福寺

住職 三田村 秀範 師範



平成三十一年三月十日、仙台市圓福寺住職 三田村 秀範 先生が世寿（行年）五十二才にて遷化（逝去）されました。

三田村先生は、平成十三年度より宗務所講師をお務めになり、師範会、BUD会の要職を務められながら研鑽に励み、平成二十年には二級師範に昇進されました。

お人柄が表れる明るいご指導で、梅花流発展のため御尽力下さいました。謹んでご遷化を悼み哀悼の意を表します。

「六教区梅花講紹介」

第六教区 徳蔵寺副住職

曳地 徳宣 師範

第六教区は、角田市と丸森町に在ります十四ヶ寺で構成されており、その中の六ヶ寺で梅花講を設置しております。また、県内では梅花人口が減少している中ではありますが、新たに梅花講を設置しようとしている御寺院様もあります。

教区内で開催される奉詠大会等の教区合同での催し物はありませんが、宮城県奉詠大会、全国大会、検定、宗務所主催の講習会、特派講習会等の各種講習会には、それぞれ目的を持って、意欲的に参加しております。宮城県奉詠大会の前に行われる教区内合同での練習の時には、教区内の講員の皆さんが集まり練習しておりますが、皆さん一生懸命にお唱えされていて、普段の各講での練習も熱心に取



「活動の灯」

り組んでおられる様子が伺われます。

また、それぞれの講の活動の一つとして、自照院様に在ります「活動の灯」という塔の前で、毎年、東日本大震災慰霊法要が執り行われております。今年は雨天の為、自照院様の法堂にて執り行われました。この塔は、全国曹洞宗青年会の震災復興活動の拠点となった事から建てられた塔でございます。宮城、岩手、福島、三県に一ヶ所ずつ在る所でございます。法要には全国曹洞宗青年会の方々が来られ、その中で供養曲をお唱えさせていただいております。

講員の皆様は、忘れてはならない大災害として、また、亡くなられた方々の為に、心を込めて真剣にお唱えしております。

これから、梅花人口が減少してい



慰霊法要

る中ではありますが、多くの先生方に教えていただいた事や、梅花を通じてたくさんの御縁に恵まれた事を大切に、梅花の良い所を広く伝えて行けるよう、日々精進して参りたいと思います。

曲木ですが

指導者養成所員

第四教区 東禪寺副住職

三宅 俊尚 師範

私が修行したお寺では、檀家さんの御供養の際、必ず三宝御和讃、追善供養御和讃、聖号をお唱えしていました。歌うことが大嫌いで、幼い頃から知恵を絞って逃げ続けてきた私でしたが、その時ばかりは逃げられるはずもなく、法々練習に取り掛かりました。

慣れない発声に苦勞しながらも何とか唱えられるようになると、次は先輩僧侶の前でお唱えする試験です。この試験に合格して初めて、檀家さんの御供養に行かせてもらえるのですが、そ

の結果は、そして先輩の評価は、

「音は合っているけど、眠くなるお唱えだね。」というものでした。

抑揚がなく、いわば棒読みの御詠

歌だということです。確かに、その先輩僧侶のお唱えは正しい音程であるのはもちろん、思わず手を合わせたくなるようなありがたさがあり、私のお唱えとは格段の差があることだけは分かりました。

その後も練習を重ねましたが、結局自信を持ってぬま、初めて檀家さんの御供養を自宅でお勤めすることとなりました。

施主様は一人暮らしのおばあさん。きれいに掃除された古いお仏壇の前で、亡きお母様の御供養でした。

緊張のなか無事乗り切ったものの、下手な御詠歌でがっかりさせてしまったかな、怒らせてしまったかな、とい



受講中の俊尚師

う思いが頭の中を巡ります。しかし、とても嬉しそうな表情をしておられるおばあさんを私は不思議に思いました。

御供養が終わり、お茶をいただきました。からお話を伺ったところ、亡きお母様は、御詠歌をなさっていたのだそうです。自分はお唱えが出来ないので、お坊さんの御詠歌を聴くと母の姿が思い起こされ、とてもありがたかった。だから、供養のたびに御詠歌を聴くことを楽しみにしているのだと。

そうしみじみと語る姿は、下手くそと怒られたり、不満を言われる以上に私には応えました。渋々やっていた自分をひどく恥ずかしく感じ、もっと上手なお唱えをお聞かせできなかったことを心から悔やみました。

この経験がきっかけとなり、宗務所養成所で学ぶことを決めたのですが、習う曲はどれも難しく、逃げたい気持ちが起こってしまうこともあります。でも、その度におばあさんの姿を思い出し、背中を押してもらっています。

梅花流宮城県師範会紹介

師範会は、宗門教化の隆昌に寄与することを目的として、昭和六十一年に設立されました。現在の師範会の会員数は六十二ヶ寺です。

活動は、梅花流の研鑽と、宗門教化の隆昌に寄与することを目的としております。

その中から、移動研修をご紹介します。

師範会は拝登と献詠を目的に、震災後は岡山県の洞松寺様や、四国の瑞応寺様、城満寺様。最近では、岩手県の正法寺様を参拝いたしました。

昨年度は「總持寺様」を拝登させて頂き、千畳敷と呼ばれる広大な「大祖堂」で献詠し、「宗門教化」を担う宗呂として、一層身が引き締まりました。

このように移動研修は、「おまいり」を通して、「ご先祖さま」や「亡き方々」への「恋慕」が、「一仏両祖」や「お祖師さま」へ「敬慕」へと自然に導かれ、その入口として「御詠歌」が、今後更に注目されることを期待するもの

です。

特に、今年度、梅花講規程の講設置基準が緩和され、梅花流が一般の方々に身近に感じることが期待されますので、その一助となるよう師範会もさらに活動を充実させて参ります。

終わりとして、師範会の年齢層は広く、「宗務所養成所」を終えたばかりの若い師範もおります。厳しい僧堂修行の後、自分の寺ばかりではなく、より多くの方々へ「ほとけさま」のご縁を繋ぐ「心の灯り」となりたいと「梅花流師範」を志した気持ちには、必ず大勢の方々を、「おまいり」のその先へご案内できるでしょう。

私たち師範会は、これから様々な活動を通して、「梅花流詠讃歌」の敷延に努めます。



總持寺様太祖堂にて

事務局

〒九八七-〇九〇一

登米市東和町米川字町下五六

大慈寺内

梅花流宮城県師範会 事務局

TEL 〇二二〇-四五二五一〇

宮城県梅花流研究会紹介

宮城県梅花流研究会は故斎藤典由師範を發起人として昭和四十一年に発足し、現在まで師範、詠範を対象に梅花流詠讃歌の興隆と伝道に努めてまいりました。当会は寺院数にして一一〇ヶ寺超の会員を有し、これまでも多くの御寺院様に支えられてきました。

近年の年間活動としては、年二回の研修会、県内外より講師を招いて一泊二日で行う研修会、そして宮城県、福島県、山形県（第一、第二宗務所）の三県の師範、詠範が一堂に会し、研鑽を重ねる「三県合同梅花流研究大会」

を行っています。前述の大会は二年に一度、各県持ち回りで会場を担当し盛大に行われます。

研修会においては日々多忙の中、研鑽を重ねている会員の皆様に実りある研修を提供できるよう、広く意見を取り入れ従来の形に囚われない研修を実施しております。

当会の活動を通して、同じ志を共にする仲間を作り切磋琢磨し、高めあうことが梅花流詠讃歌を通して結ばれるご縁に感謝し、更なる詠道の研鑽と発展の一助になるように努めております。

更なる研鑽を目指している師範、詠範の方、入会は年中随時受付しておりますので事務局までご一報下さい。

事務局

〒九八六-二二〇二

牡鹿郡女川町尾浦字鯛ノ浜六

保福寺内

宮城県梅花流研究会 事務局

TEL 〇二二五-五四一三八三六



平成三十年度 全国奉詠大会に参加して

第十六教区 補陀寺講

阿部 正子

風薫る五月二十三〜二十四日、梅花流の発祥地静岡「このはなアリーナ」で全国奉詠大会があった。気仙沼からの参加である。二十三日早朝五時半出発しバスで仙台まで。新幹線に乗り換え東京へ。東京で又乗り換え小田原で下車。箱根関所跡等見学する。その晩は伊豆長岡温泉泊。当日二十四日「このはなアリーナ」までバスで移動する。若い和尚さん達の歓迎を受け会場へ。私たちは宮城県席に着き開会を待つ。オープニング「尺八」と駒沢大学の学生の吹奏楽で幕があく。第一部「法要」「式典」に続き代表登壇となる。宮城県の今年の課題曲は「釈尊花祭第一番御詠歌『歓喜』」だった。私達補陀寺講の登壇は四人との事。丁度「権大教導」の四人が全国大会に参加することになっ

ていたので先生が貴女達にお願いしたいとお話しされた。全国大会の登壇は初めてである。歓喜はお唱えだけでなく所作もある。お受けした以上は失敗は出来ない。四人でしっかり練習をした。当日緊張の中にも無事登壇し、奉詠出来た事は本当にうれしく思う。全国大会でみなさんの奉詠を聞くのも大会に参加するこの上ない醍醐味である。梅花流の仲間とのふれ合い親しみを感じるひとときでもある。閉会の駒沢大学の若きあふれる吹奏楽には感激ひとしきりであった。英気を頂いた。来年は熊本との事。私も現在八十六才。幸い娘も入会している。足腰の元気な内は参加するつもりでいる。帰りは曹洞宗「可睡斎」多くの雲水さん達が修行する禅の寺を見学する。その後は掛川の加茂花鳥園、花菖蒲とあじさいの楽園を散策し楽しんだ。各地の名所の寄り道も全国大会に参加する楽しみのひとつである。

表紙説明

見わたせば 功德の海に よせかえす

ひとつひとつの 波のきらめき

観世音菩薩第二番御詠歌《浄光》



この写真は、東日本大震災で壊滅的な被災をこうむられた、石巻市大川地区で、震災の数年前に撮った、のどかな春の日の、海の写真でございます。風ひとつなく、まばゆい太陽の光を受け、海一面が様々な色を帯びて、無数の光となって、輝いていました。その中で、多くの鳥たちが各々自由にくつろぎ、命を謳歌し、まさにこの世に桃源郷が現出したが如くの風景でございました。おのずと、観音様の第二番の御詠歌《浄光》の歌詞と旋律が心に浮かんでまいりました。

「見わたせば 功德の海に よせかえす
ひとつひとつの 波のきらめき」

この歌は、道元禅師様が中国での修行中、観音信仰の中心的霊場である現、浙江省寧波府の東海上の一島にある普陀落山を訪れた際、その風景に、多くの人の祈る姿に、大変感動され、それを漢詩に二首残されていますが、その素晴らしい感動をテーマに、作詞されたものがございます。

多くの人々が霊場に参詣して、それぞれ祈りをささげ、その後ろには光り輝く大海があり、その、無数のまばゆ

い光が、そのまま、各々の命の輝きであり、また同時に、観音様の功德と願いの輝きでもあると説かれています。その命の輝きとは、おそらく現在生きている無数の命、それだけではなく、この大震災でも失われた、多くの過去の命でもありましょう。又、これから生まれてくる命の輝きでもあるのではないのでしょうか。過去、現在、そして未来への命の繋がりに想いを馳せ、不思議を思い、自分に至るまでの、何千年、何億年という悠久の命の継承を思い、今のこの命を精一杯、一所懸命、仏の道に沿うべく正しく、明るく精進していく。そのような姿にこそ、仏様や観音様を初め諸仏諸菩薩様の、ご加護や救いがあるのではないのでしょうか。

最後に、この写真の大川地域を初め、多くの被災された地域に一刻も早く、多くの命が輝き、躍動する、かつての桃源郷が復活することを、心から祈念するものがございます。

(写真と文)

元梅花流特派師範

眞源寺住職 齋藤政裕

宗務所講習会

本年度は偶数教区で開催いたします。
担当師範は、次のとおりです。

二教区	藤澤	智洋	師範
四教区	高橋	恵一	師範
六教区	三宅	俊乗	師範
八教区	曳地	徳宣	師範
十教区	佐藤	正明	師範
一二教区	石川	素宏	師範
一四教区	田村	修樹	師範
一六教区	本多	賢浩	師範
一八教区	高橋	信弘	師範
二十教区	奥野	秀典	師範

・受講料は、**お一人千円**です。



特派講習会

日程は次のとおりです。例年どおり、
四ブロックで開催いたします。

・受講料は、**お一人千円**です。

六月十日(月)	一八教区	柳徳寺
期日	教区	会場
十一月一日(火)	一七教区	城皇寺
十二月二日(水)	九教区	富光寺
十二月三日(木)	一〇教区	玄松院
十二月四日(金)	二〇教区	護勢寺

六月十日(月)	一三教区	照源寺
期日	教区	会場
十一月一日(火)	一五教区	大徳寺
十二月二日(水)	一四教区	大慈寺
十二月三日(木)	一六教区	松岩寺
十二月四日(金)	一二教区	香積寺
十二月五日(土)	一一教区	光明寺

六月十日(月)	二教区	国分尼寺
期日	教区	会場
十一月一日(火)	二教区	弥勒寺
十二月二日(水)	三教区	龍澤寺
十二月三日(木)	七教区	糟川寺
十二月四日(金)	八教区	洞雲寺

Dブロック

六月十日(月)	一教区	明川寺
期日	教区	会場
十一月一日(火)	五教区	東禅寺
十二月二日(水)	六教区	自照院
十二月三日(木)	一九教区	光明寺
十二月四日(金)	四教区	東岩寺

御礼 募金のご報告

宮城県曹洞宗青年会

サンタピアップ宮城ボランティア会

会長 長谷川 俊昭

平成三十年度県大会の際には、カンボジア教育支援募金をお願いをさせて頂きましたところ、お陰様で、左記の通りたくさんのご芳志を頂き、誠にありがとうございました。

皆様からお寄せ頂いたご厚情に心より感謝申し上げますと共に、謹んでご報告申し上げます。

教育支援募金 二九七、五四九円

クラフト販売売上 二〇六、二四九円

合格おめでとう ございます

平成三十年度は、次の方々が宗務庁
検定で合格されました。

三級師範

仙台市 鉤取寺 都 築 達 明

一級詠範

登米市 香林寺 武 山 克 枝

二級詠範

松島町 龍澤寺 清 野 悠 子

二級教範（宗務所検定合格者を含む）

大崎市 桃源院 岡 田 美 恵 子
石巻市 法山寺 木 村 郁 子
石巻市 法山寺 星 澤 茂 子

新しい講の紹介

新しいお仲間です。どうぞ仲良くして
下さい。

教 区 地 区 講 名
第一九教区 巨理町 高音寺講

宗務所検定会

今年度は二会場で開催いたします。
充分勉強されてから、受検して下さい。

十月二十九日（火）石巻市 法山寺様
十一月六日（水）栗原市 雙林寺様

※「二級教範」は、検定委員の資格の
関係で、本年は、十月二十九日
石巻会場のみで受け付けます。

・いづれも午前九時受付です。
・検定料は一人 四千元です。

師範会主催検定会

今年も師範会主催で検定会が開催さ
れます。近隣教区の方はこちらで受検
下さい。

十一月中旬予定 蔵王町 保昌寺様

※中級教導までの受検となります。

※詳細は師範会事務局までお問合せ下
さい。

特別講習会

期 日 二月十八日（火）

午前九時半 受付

〳二月十九日（水）

十三時 解散

《一泊二日》

会 場 秋保温泉「ホテルニュー水戸屋」

TEL 〇二二―三九八―二三〇一

受講料

・ 宿泊 二万二千元
・ 日帰り 一万四千元
（予定です）

定 員 三〇〇名

申 込 詳しくは、後日各講宛にご案

内いたします。

講 師

県外講師 五名の師範
県内講師 一名の師範

※ 受講料・内容ともに、変更する場合
があります。

令和元年度 梅花流宮城県奉詠大会

1. 期 日 令和元年10月3日（木） 午前9時受付 午後4時散会予定
2. 会 場 仙台サンプラザ 仙台市宮城野区榴岡5-11-1
3. 会 費 参加費 一人 金5,000円 寺院協賛金（任意） 一口 金5,000円
4. 〆 切 7月31日（予定）

☆詳しい要項は後日各講宛ご案内いたします。

☆申込後の会費の返却はいたしません。

登壇奉詠課題曲

★予定です

登壇順	教 区	課 題 曲	頁
1	養成所	大聖釈迦如来無尼如来御詠歌（紫雲）	37
2	21	開山忌御和讃	185
3	9	達磨大師御詠歌（廓然）	121
4	14	釈尊花祭御和讃	69
5	15・⑩	釈尊花祭第1番御詠歌	73
6	11	無常御和讃	215
7	12	高祖承陽大師道元禅師第一番御詠歌（梅花）	51
8	10	御授戒御和讃	197
9	18	追善供養御詠歌（妙鐘）	231
10	5	報恩供養御和讃	233
11	7・⑧	修証義御詠歌（伝心）	27
12	13	観世音菩薩御和讃	97
13	6・⑪	大本山永平寺二祖懷莽禅師讃仰御詠歌（永光）	177
14	②・4	大聖釈迦如来成道御和讃	81
15	17・⑫	大聖釈迦如来成道御詠歌（明星）	85
16	3	高祖道元禅師学道御和讃	161
17	1	太祖常済大師瑩山禅師影向御詠歌（伝光）	171
18	師範・詠範	正行御和讃	265
		正行御詠歌（道環）	269

☆ 教典頁は、平成19年改訂第二版のものです。

☆ ○印は、合同登壇される組の、詠題・詠頭 担当教区です。